

低炭素社会の実現に向けて、 再生可能エネルギーを積極的に導入しています。

再生可能エネルギーの
開発・普及に、積極的に
取り組んでいます。

関西電力ではエネルギーセキュリティ
や地球温暖化対策の観点から、大規模
太陽光発電所や中小規模水力発電所
および風力発電所の建設や石炭火力
でバイオマス燃料を混焼するなど、
再生可能エネルギーの積極的な開発・
普及拡大に取り組んでいます。

日本最大級の太陽光
(メガソーラー) 発電所を
建設しました。

関西電力は、大規模太陽光(メガソー
ラー) 発電所の「堺太陽光発電所」を
堺市臨海部に建設しました。出力は国内
最大級の1万kWで、CO₂削減量は年間
4,000トンになる見込みです。太陽光
発電は日射量の変化による出力の変動
が大きく、その変化も早い場合、将来、
電力系統へ大量に受け入れた場合、
電気の品質、安定供給に影響を及ぼす
可能性があります。このため、関西電力
では、まず、「堺太陽光発電所」の運転に
より、出力・電圧の変動を把握すると
ともに、関西一円で計測する太陽光

発電の出力・日射量等のデータも活用
し、諸課題を検証してまいります。新たに
得られた知見は広く情報発信し、太陽光
発電の普及拡大に役立てていきたい
と考えています。

また、今後の太陽光発電所の建設に
ついて、福井県若狭地域のおおい町と
高浜町のそれぞれに、発電出力約500kW
の太陽光発電所の建設を計画しています。



●堺太陽光発電所

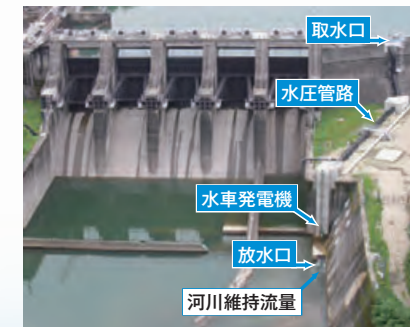
関西電力グループ初の
風力発電事業を
実施しています。

関西電力グループの関電エネルギー
開発(株)では、兵庫県淡路市北部の
丘陵地において、グループ初である
風力発電所の建設をすすめています。
完成後の出力は1万2,000kWでCO₂
削減量は年間7,000トンになる見込み
です。

関西電力初の
河川維持流量を利用した
大桑野尻発電所を建設しました。

長野県木曾郡大桑村にある読書(よみ
かき)ダムでは、関西電力として初めて
河川維持流量*を利用した発電所
(最大出力490kW)を建設し、2011年
6月に営業運転を開始しました。これ
により年間約1,300トンのCO₂排出量
の削減が期待できます。

*ダム下流の景観の保全など、河川環境の維持の
ために放流する必要流量。



●大桑野尻発電所の概要

バイオマス燃料を使って
CO₂排出量を削減する
取り組みを行っています。



●木質ペレット

関西電力では、石炭火力の舞鶴発電所
で、2008年8月から、木質ペレットと
呼ばれるバイオマス燃料の使用を開始
しました。石炭にバイオマス燃料を混ぜ
て燃やすことによって石炭の消費量が
抑えられ、その結果、CO₂排出量を減らす
ことが期待できます。